

## ■ 今月のメッセージ(平成 21 年 9 月)

日本銀行富山事務所長  
水上 誠一

政権は新しくなりますが、経済の現実には、回復の兆しを見せているとはいえ、次に一例を挙げるように、厳しいニュースがまだまだ続いており、政策への期待は大きく膨らんでいます。

- ①日本のGDPは中国に抜かれ3位に転落へ。
- ②2009年の財政赤字は44兆円と前年比7割増。
- ③失業率は戦後最悪の5.7%。

①人口からみて中国が日本を抜くのは当たり前といった議論もありますが、日本の一人当たりGDPは19位(2007年)。2000年の3位から落ち続けています。このままでは、日本が「日没する処」になりかねません！！

②「財源」が話題になりましたが、所詮「国債」を当てにしない政策は残念ながらありません。これだけ発行していても国債が暴落しないのは、幸いにも国民がその殆どを買ってくれているからです。これからは国内消化の限界を見極める必要があります！！

③補助金で雇用を維持しても、企業の「仕事」が増えなければ、まだまだ雇用調整は続いてしまいます。国が率先してセールスマン役を果たし、世界中から「仕事」を集めてきてほしいと願います！！

ということで、前途多難ではありますが、真っ当な政策と勤勉な日本人の一人一人の努力があれば、「国力」の回復は十分に可能です。政策頼みに終わらず、選択責任を負った国民の実践力が試される時です。